

北見市における景気動向調査報告書

< 第 III 四 半 期 >

北 見 商 工 会 議 所

I. 調 査 要 領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1) 調査時点 平成26年1月20日

(2) 調査対象期間 平成25年10月～12月期実績および平成26年1月～3月期見通しについて調査した。

2. 調 査 対 象

北見市に所在する製造業、建設業、卸売業、小売業、サービス業の5業種150社を対象に、往復ハガキにより調査した。

3. 回 収 状 況

業 種 \ 企業数	対象企業数	回答企業数	回 答 率
製 造 業	30社	23社	76.7%
建 設 業	30社	22社	73.3%
卸 売 業	30社	21社	70.0%
小 売 業	35社	22社	62.9%
サービス業	25社	17社	68.0%
合 計	150社	105社	70.0%

注) 本調査結果の中で、D・I値とある記号は、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)で好転企業割合から悪化企業割合を差し引いた値を示す

Ⅱ．概 況

《 全 体 の 動 き 》

平成25年度第Ⅲ四半期<10月～12月>の北見市における業況は、前年比で「好転企業」28.6、「悪化企業」29.5、「好転」から「悪化」を差し引いたD・I値は△0.9となっています。

このD・I値を前年同期と比較してみると、前年同期比△18.5→今回△0.9と17.6ポイントの好転となっています。また、前期<25年度第Ⅱ四半期>との比較でも、前期△9.3→今回△0.9と8.4ポイントの好転となりました。

今回の業況を業種別で見ると、製造業D・I値△4.3、建設業D・I値31.9、卸売業D・I値0.0、小売業D・I値△4.5、サービス業D・I値△35.3となっており、前年同期調査と比較すると、建設業で36.2ポイント、小売業で30.5ポイント、卸売業で12.5ポイント、製造業で4.5ポイント、サービス業で3.6ポイントの好転と全業種で改善が見られ、特に建設業では30を超える高いプラス値となりました。要因としては、主に前期調査時に見られた消費税増税前の駆け込み需要と公共工事の増加、それに伴う資材発注増などが考えられますが、前期不調であった製造業、サービス業も若干ながら好転となったことから、緩やかではあるものの、景気自体の持ち直しが見られる結果となりました。

なお、来期の見通しを全業種で見ると「好転企業」18.1%「悪化企業」31.4%でD・I値△13.3と、前年同期(△30.5)に比べ17.2ポイント好転となり、D・I値はマイナスで予断は許さないものの、今期に引き続き改善の兆しが伺える来期見通しとなっています。

《 業 種 別 の 動 き 》

1) 製 造 業

生 産 高

前年比で「増加企業」26.1%、「減少企業」30.4%、D・I値△4.3と前年同期に比べ、21.8ポイントの好転を示しています。

採 算

前年比で「好転企業」21.7%、「悪化企業」30.5%、D・I値△8.8と前年同期に比べ17.2ポイントの好転を示しました。

来期見通し

業況D・I値△30.5、生産高D・I値△30.5、資金繰りD・I値△30.5と全て悪化となり、今期の状況から一転、厳しい来期見通しとなっています。

2) 建設業

完成工事高

前年比で「増加企業」50.0%、「減少企業」13.6%、D・I値36.4と前年同期に比べ27.7ポイントの好転を示しており、業況と同様、D・I値が30を超える高いプラス値となりました。

採算

前年比で「好転企業」31.8%、「悪化企業」22.7% D・I値9.1と前年同期に比べ13.4ポイントの好転を示し、D・I値がマイナスからプラスに転じる結果となりました。

来期見通し

業況D・I値9.1、完成工事高D・I値4.6、資金繰りD・I値0.0と全てのD・I値がマイナスから改善しており、今期に引き続き好転の見通しとなっています。

3) 卸売業

売上高

前年比で「増加企業」42.8%「減少企業」28.6%、D・I値14.2と前年同期に比べ18.3ポイント好転傾向を示し、D・I値がマイナスからプラスに転じる結果となりました。

採算

前年比で「好転企業」33.3%、「悪化企業」28.6%、D・I値4.7と前年同期に比べ25.5ポイントの好転傾向を示し、売上高同様D・I値がプラスに転じる結果となりました。

来期見通し

業況D・I値△14.2、売上高D・I値△14.2、資金繰りD・I値△14.2と前年同期に比べ、全て好転傾向を示しており、持ち直しが期待できる見通しとなっています。

4) 小売業

売上高

前年比で「増加企業」27.3%「減少企業」31.8%、D・I値△4.5と前年同期と比べて25.5ポイントの好転傾向を示しています。

採算

前年比で「好転企業」22.7%「悪化企業」27.3%、D・I値△4.6と前年同期と比べて25.4ポイントの好転傾向を示しています。

来期見通し

業況D・I値0.0、売上高D・I値0.0、資金繰りD・I値△4.6と、前年同期と比べ、全て大幅な好転傾向を示し、前年同期の非常に高いマイナス値から改善しました。

5) サービス業

売上高

前年比で「増加企業」5.9%、「減少企業」41.2%、D・I値△35.3と前年同期と比べ1.9ポイントのわずかな悪化が見られました。

採算

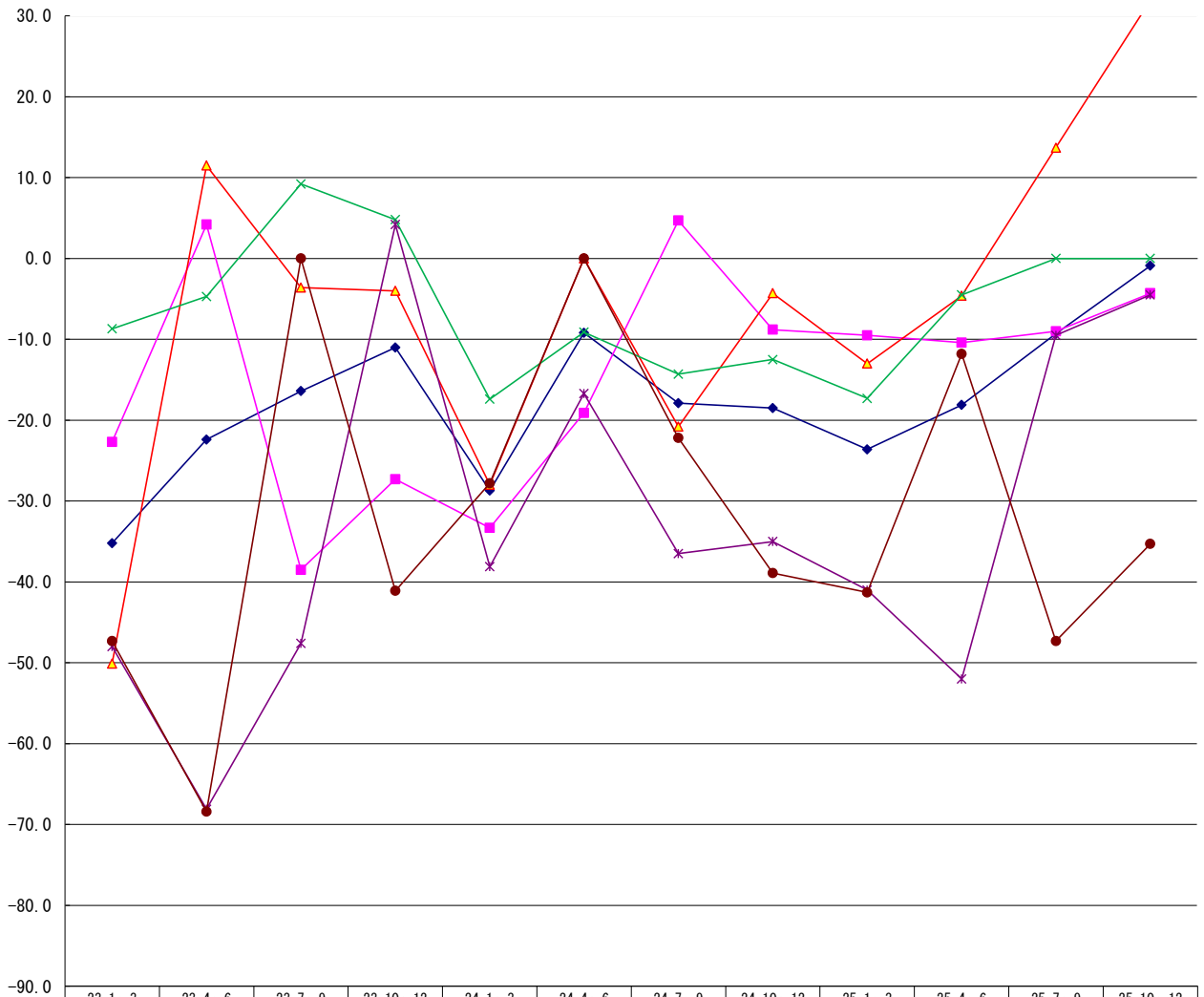
前年比で「好転企業」6.3%、「悪化企業」31.2%、D・I値△24.9と前年同期に比べ19.6ポイントの好転を示しました。

来期見通し

業況D・I値△35.3、売上高D・I値△41.3、資金繰りD・I値△17.6と前年同期と比べ、業況、資金繰りは好転しているものの、売上高では悪化となっており、予断を許さない来期見通しとなっています。

業況（前年同期比）

◆ 全業種 ■ 製造業 ▲ 建設業 × 卸売業 * 小売業 ● サービス業



	23. 1~3 2 2 年度IV	23. 4~6 2 3 年度 I	23. 7~9 2 3 年度 II	23. 10~12 2 3 年度 III	24. 1~3 2 3 年度 IV	24. 4~6 2 4 年度 I	24. 7~9 2 4 年度 II	24. 10~12 2 4 年度 III	25. 1~3 2 4 年度 IV	25. 4~6 2 5 年度 I	25. 7~9 2 5 年度 II	25. 10~12 2 5 年度 III
◆ 全業種	-35.2	-22.4	-16.4	-11.0	-28.7	-9.2	-17.9	-18.5	-23.6	-18.1	-9.3	-0.9
■ 製造業	-22.7	4.2	-38.5	-27.3	-33.3	-19.1	4.7	-8.8	-9.5	-10.4	-9.0	-4.3
▲ 建設業	-50.1	11.5	-3.6	-4.0	-28.0	0.0	-20.8	-4.3	-13.0	-4.6	13.7	31.9
× 卸売業	-8.7	-4.7	9.2	4.8	-17.4	-9.1	-14.3	-12.5	-17.3	-4.5	0.0	0.0
* 小売業	-48.0	-68.1	-47.6	4.2	-38.1	-16.7	-36.5	-35.0	-41.0	-52.0	-9.5	-4.5
● サービス業	-47.3	-68.4	0.0	-41.1	-27.8	0.0	-22.2	-38.9	-41.3	-11.8	-47.3	-35.3

業 種 別 経 営 上 の 問 題 点

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
製 造 業	諸 経 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足	人 件 費 増
建 設 業	人 材 不 足	諸 経 費 増	同業者間の競合	人 件 費 増	得 意 先 減 少
卸 売 業	同業者間の競合	得 意 先 減 少	諸 経 費 増	人 材 不 足	人 件 費 増
小 売 業	得 意 先 減 少	同業者間の競合	諸 経 費 増	資 金 調 達 困 難	人 材 不 足
サービ業	諸 経 費 増	人 件 費 増	同業者間の競合	得 意 先 減 少	人 材 不 足
合 計	同業者間の競合	諸 経 費 増	得 意 先 減 少	人 材 不 足	人 件 費 増

※ 問題点は、各業種とも3つ選択。

合計回答数のトップは「同業者間の競合」で、前年同期調査と同じ結果となった。続く2～5位も変動がなく、また業種別に見ても建設業を除く全ての業種でトップ回答に変動がなかったことから、それぞれの課題が慢性化しているものと思われる。中でも原材料の高騰による諸経費増が全業種で課題となっている。なお、建設業では「人材不足」がトップ回答となっており、職人不足の深刻化が伺える。

※その他及び具体的な業界の問題点の記載事項

- (製造)
 - 玉ねぎの不作により原料不足、調達コスト増、作業効率悪化（農産物加工製品）
 - 原材料の上昇を価格に転嫁できない（印刷）
 - 景気回復の偏り（建設用金属製品）
 - 利益率の減少（木製建具・家具）
- (建設)
 - 資材の高騰、人材の不足と高齢化（土木・建築）
 - 遊休資産の未活用（塗装）
 - 人材不足。数回にわたり募集するも反応がない（板金）
- (卸売)
 - アベノミクスの影響なし。経費増で厳しい（医療・介護福祉機器）
 - 過当競争の激化（医療・介護福祉機器）
 - 取扱数量が増加し売上は上がっているが、利益は増えない（石油製品）
 - 消費税増税前の駆け込み需要とその反動がもたらす影響について、先行きが不透明
(種苗・肥料・農薬農業資材)
- (小売)
 - 人材不足（食肉）
 - 価格ばかり気にするのではなく、原点を見つめ研鑽に励む必要がある（眼鏡販売）
- (サービス)
 - 人材不足の深刻化（理美容）

業 況

※「好転」または「悪化」の項目が特に多かった企業を抜粋

※太字アンダーラインは複数企業が回答

製造業 ⇒ 好転（ビール製造、農業機械金属用製品、木製建具・家具）
悪化（農産物加工製品、鋳物、菓子）

建設業 ⇒ 好転（土木・とび土工、管・土木）
悪化（なし）

卸売業 ⇒ 好転（鉄鋼、製材、建築資材・家具、事務機器・事務用品）
悪化（食品、米穀、医療・介護福祉機器）

小売業 ⇒ 好転（食肉、眼鏡、生花・園芸、生鮮食品）
悪化（酒類、衣料品、農業機器、米穀）

サービス業 ⇒ 好転（IT）
悪化（ホテル【**宿泊**】、飲食、クリーニング、理容、弁当仕出）